



激戦の京都1区で必勝をめざす穀田恵二さん（日本共産党国会対策委員長、衆院比例近畿ブロック予定候補）。待ちに待った総選挙が間近に迫ったいま、選挙にかける意気込みを聞きました。

さあ総選挙

歴史開くたたかいを

日本共産党衆議院議員 穀田恵二

ひろば 深刻な経済危機で、日本はどうなってしまうのだろう。と思う人が増えていきますね。

穀田 解雇された多数の労働者がたちまち路頭に迷い、首都の真ん中に「派遣村」があらわれたのは日本だけです。

職を失えば住まいを失う、若い人ばかりではありません。お年寄りも低所得者を中心に行き場がない・住まいがないという大問題が起き、「ハウジングプア」という言葉まで使われ、低所得で介護が

必要な高齢者たちを集め、生活保護費や介護保険報酬を狙う「貧困ビジネス」が拡大しているなどの事態が生まれています。

日本は、国民の暮らしを守るまともなルールがない「ルールなき資本主義の国」といわれています。国民の暮らしを守る最小限の防波堤まで「構造改革」で崩されてしまったところに、世界から経済危機が襲いかかり、日本ではとりわけ経済危機が残酷な形であらわれているのです。



京都の経済人と「日本経済改革」を語りあう（3月7日、京都市）

このゆがみを根本からただし、国民の暮らしと権利を守る「ルーある経済社会」をつくる、日本共産党はそのことをこんどの総選挙の旗印にしてたかいます。そのため大企業の横暴勝手を抑え、その社会的地位にふさわしい責任と負担を求める改革が必要ですね。

京都の変化

ひろば 穀田さんの地元・京都

は中小企業の町ですね。

穀田 昨年末、8万人の会員を擁する京都府中小企業団体中央会主催の「経済危機突破 中小企業緊急大会」に共産党の国会議員として初めて呼ばれたのですが、その大会のスローガンは「消費税引き上げ反対」でした。このスローガンが気に食わないと、自民党の地方議員は参加しませんでした。その大会で会長が「このスローガンは事務局が書いた」と話しはじめられたので「訂正するのかなあ」と思っていたら「そんな中途半端なことではダメだ。消費税は廃止すべきだ」という訴えをされたのです。非常に衝撃的でした。

また、京都中央市場の京都塩干魚卸協同組合と正式に懇談しました。理事長以下ずらっとそろった場で「食料品の非課税を実行して

ほしい」と要請されたのもこれまでにないことでした。それほど中小企業は危機的な状況にあるし、政治にたいするいきどおりはきわめて強いのです。

日本一ネクタイが似合う男

今年3月には、志位委員長の講演に経営者・銀行幹部など京都の財界人250人が参加し、互いに胸襟を開いて懇談しました。西陣織工業組合理事長が——この組合から私は昨年、「京・ベストタイ・ドレッサー賞」をいただいた。「日本一ネクタイが似合う男」といつていただいたのですが——「大事なのは『虚業』でなく『実業』の栄える日本にすること」と語ったのをうけて志位委員長が「私たちの考えと同じです」と応じ、揮ご



「京・ベストタイ・ドレッサー」に認定される穀田さん（08年10月、京都市・西陣織会館）

うする場面もありました。日本経済を中小企業が主役の内需主導型に切り替えてゆこう、という私たちの提唱が幅広い合意になりつつあると実感しています。

手仕事を愛す

ひろば 京都には文化財産ともいえる伝統産業もいっぱいありますね。穀田さんのホームページを見ると、京都への深い愛情を感じます。

穀田 私は本当に京都の伝統産

業、手仕事を愛しています。たとえば京都に1軒しか残っていない足袋屋さん。つれあい（染色業のこくたせいこさん）が購入した布地を持って行って、仕立ててもらいました。こはぜに名前を入れてくれはるんです。西陣織、京友禅、清水焼だけではありません。和竿^{わざお}、調べ^{はし}緒、箸、茶筒、京指物、金網、京瓦、京扇子、京すだれなど挙げたらきりがありません。お菓子も好きですね。しょっちゅう和菓子屋さんをのぞいています。それは、選挙目当てのようなものではなくて、心底好きなんですわ。（笑い）

伝統工芸品は、その一つひとつが手仕事の極みのような美しさをたたえています。大企業だけが栄えて手仕事がほろんでしまうような国でよいのか。「モノづくりで

生きていける社会にしてほしい」というみなさんの声にこたえたいと思っています。

立ち上がった若者

また、深刻な雇用問題に直面し、人間らしい労働のルールをつくるために立ち上がった若者たちと昨年11月に座談会をする機会がありました。大手自動車系列の請負会社の組合員の若者は、労働組合を結成し、45人の従業員全員が10月31日付で解雇されたのになんとして団体交渉し、解雇はとめられなかったが、約3千万円の退職金を支払わせるという成果をあげました。請負で働いていた人が退職金をもらうのは初めての体験だったそうです。

この若者をはじめ、現在全国各地で1万人以上の労働者が600

を超える労働組合に結集して雇用破壊に反対するたたかいに立ち上がっています。これは労働者の仕事を守るたたかいであると同時に、不当な攻撃にたいしては社会的に連帯して反撃することであるという日本社会の姿形をかえてゆく大きな未来あるたたかいでもあると、感動をもって話をうかがったことでした。

父にしろれた夜

ひろば お父さんの影響が大と語っていらつしやいますね。

穀田 父は、岩手銀行に勤め労働組合役員をしており、日本共産党員でした。高校生のときに、父が開いた学習会に参加したことがあります。子どものころから「赤旗」を読んでいた私は、物知り顔で「こんなことも知らないのか」

と発言してしまったのです。父から「働く者の苦勞がわかってからものを言え」といわれて、大変こたえました。

その夜父は私に徳永直の『太陽のない街』、小林多喜二『蟹工船』、そしてマルクスの『賃労働と資本』の3冊を渡してくれました。どれも労働者の現場を知ることの大切さを教えてくれた本です。長々と説教をするより、そつと本を手渡すのが父らしかったです。その父も亡くなってもうすぐ4年になります。死に目にもあえなかつたし、生きているときはなにもしてやれなかつた。そんな思いもあつてこれまで父の話をすることができなかつたのですが……。電話をする時、いつもこわい顔をしている父が破顔一笑するから「恵二からだとすぐわかる」と母がい

っていましたが、少しは父の思いを受け継ぐことができたのかなと思えますね。

庶民の絆

祖父は水沢で旅館業を営み、自民党の議員をしていました。祖父が銀行に融資を頼んだとき、銀行からこういわれたそうです。「おたくの息子さんは労働組合の役員をしている。労働組合をやめてくれとはいわん。せめて役員は降りてくれないか」と暗に融資の条件として迫つたと。祖父は「倅せがれを売ることができるか！」と断つたそうです。その話を私がおじから聞いたとき祖父はすでに亡く、父は「知らなかつた」と号泣しました。祖父とは政治的立場は違いましたが、たとえ貧しくとも自分の息子を売るまいとした庶民の心意氣

がうれしかったですね。互いを守りあってきた庶民の絆を教えてくれた祖父、働く者の権利を守るためにたたかった父、そして私。日本共産党員としての活動の原点を祖父と父に教えてもらったように思います。

京都の平和運動

ひろば 京都には、思想信条を超えた幅広い平和運動の伝統もありますね。オバマ大統領が「核兵器のない世界」を宣言するなど世界が平和に向けて動き始めました。

穀田 志位委員長が核兵器廃絶問題でオバマ大統領にあてて書簡を送り、その返書が届いたことは内外に積極的な反響をよんでいます。私もさっそく志位委員長の書簡と大統領の返書をもって清水寺

を訪ねました。

清水寺では1971年以来毎月6と9の日に、核兵器廃絶、被爆者救援を求めて京都教職員組合女性部が「6・9行動」を取り組み、先日千回目を迎えました。森清範管主は「女性たちのねばり強さに頭が下がります。こういう取り組みが核兵器を使わせないということにつながったと思うと誇らしい」と語っておられました。また「6・9行動」は、故・大西良慶管主が境内を提供してくださったこと、この行動を「菩薩行」とたたえて激励した故・福岡精道教学部長の尽力があったということを初めて知りました。京都には「宗教者九条の和」があり、本堂前に「お釈迦様のみ教えと平和憲法を両輪として」と書かれた鞍馬寺貫主の信楽香仁さんは

鶴見俊輔さん（哲学者、「九条の会」呼びかけ人）の推薦文

日本共産党とおない年の私は、自分の生きているあいだに、この政党が日本国のおこした戦争にいつも反対してきたことをおぼえています。未来におこり得る戦争に対して、ともに反対してゆきたいと思っています。

じめ、著名な宗教人が名前を連ねています。京都らしいふところの深い平和運動に励まされています。そして、日本共産党がこうしたみなさんといつもいっしょに平和のために取り組んできたことを誇りに思います。

世界が「核のない世界」「戦争のない世界」にむけて大きく動きはじめたもとでたたかわれる総選挙です。87年間、一筋に平和を貫いてきた党としておおいに真価を語ってゆきます。

どうみる自民・民主

ひろば 自民か民主のどちらが政権の担い手になるかが争点かのような報道がされていますが？

穀田 自民・民主の両党は政治の中身に違いがないということにとどまらず、大企業・財界中心の政治、「軍事同盟絶対」の政治を共有し、古い政治の枠組みのなかで競い合って悪政を推進していることを指摘したいですね。

京都では財団法人「日本漢字能力検定協会」をめぐる背任容疑事



愛用している京足袋、京釣竿（穀田さんのホームベージュから）

件で、逮捕された前正副理事長側から汚染マネーを、自民党（伊吹文明、谷垣禎一両衆院議員）は244万円、民主党（福山哲郎、松井孝治両参院議員、前原誠司衆院議員）は842万円を受け取っていたことが明らかになり、大問題になっています。前原氏は、集団的自衛権を行使できる方向での憲法9条改定を米国に誓約した人物です。

両党が消費税の増税、自衛隊の海外派兵、憲法改悪、国民の民意を削る比例定数削減を打ち出すなど、日本の政治を逆行させる動きをしていることは重大です。日本共産党は、「2大政党」による悪政に正面からたちはだかる唯一の

政党であり、国民の願いを実現させるための提起を積極的におこない、そのための協力をおしまない党です。この党を伸ばすことが、明るい日本の未来を切り開く上でどうしても必要だと強く訴えていきたいと思っています。

全国遊説をしていますが「京都1区で勝ちましょう」という声を、多くのみなさんからかけていただきます。京都をふるさとのように思ってくださいというみなさんからの激励にも励まされています。『女性のひろば』の読者のみなさんにもお声をかけていただきましたら勇気百倍です。

「ルールある経済社会」「自主・自立の平和外交」という21世紀の日本の進むべき道かけた歴史的な選挙です。ともにがんばりましょう。